

「ひとのあいだ」は、日生中学校の様子(学校・生徒の取り組み)を知っていただき、ご家庭と連携・協働していくため、そして(地域と共にある学校)の取組の一環として随時お届けします。

○NIE…山陽新聞(9/11)に、日生地域の記事がいくつか掲載されていまして紹介します。NIE(エヌ・アイ・イー)は、「Newspaper in Education」の略称で、日本語では「教育に新聞を」と訳しています。新聞を教材として学校教育に役立てようという取り組みです。生徒に社会への関心を高めてもらうとともに、「情報を読み解く力」「考える力」「問題を解決する力」などを身につけてもらうことを目的としています。



100年で1.35度上がった会
(気象庁の発表による)

たしかに、日本の平均気温は世界の中でも特に上がり方が大きく、35度以上の猛暑日の数も増えているらしい。

えっ、そうなの？

おほおほやん、聞いたんだけど、昔は30度までしかあがりませんでしたよ。

外で遊ぶのはやめようか...

今日も暑いなあ

なんでこんなに暑いのか？

原因の1つは地球温暖化です。いすくわーりしたお花畑のようですね。

※地球温暖化とは、大気中の温室効果ガスが地球全体の平均気温を上昇させる現象です。

気象庁によれば、立花神社の観測所では、温暖化のスピードは、西からの偏西風の吹き寄せが前年より強くなったことにより、日本列島の暖かい空気を運ぶようになったそうです。

まえ

近年

暖かい空気

海水量はなぜ上がったの？

さらに、日本を取り巻く海水温の奥底が高くなったことも関係しているモン。

ふつふつからはすずしい風がふくけど...

海水量はなぜ上がったの？

みんなのせけん

こたえるモン何でも答えてくれる物知りモンスター

リク(小5) 漫画家を夢見るサッカー少年

ナミ(小5) 運球はダンスとダンス

作・青田直世

秋になっても海水温が下がらず 気温も高いまま

海と秋が短い

秋になっても海水温が下がらず 気温も高いまま

海水温が高いと 水蒸気が発生しやすい

そして、この海水温の上昇が、さまざまな気象の変化をもたらしているモン

暖かくなると、水蒸気が多くなるから 雲の量も多くなる

その黒潮が温暖化でさらに暖められているから、温度が高い黒潮と、海流があつ...

その黒潮が温暖化でさらに暖められているから、温度が高い黒潮と、海流があつ...

40度があつたら なったりしたら いやだなあ

地球温暖化を食い止めるためには どうしたらいいか みんなで考えるモン



古くから漁業や海運業で栄えてきた備前市日生町の社寺に焦点を当てた企画展「縁起と祭礼」が、同日日生町日生の加子浦歴史文化館で開かれている。海とともに歩んできた人々が豊漁や船の安全を願いながら神仏に寄せた思いを今に伝えている。30日まで。

市指定文化財・阿弥陀如来画像(左)をはじめ、日生の社寺の資料が並ぶ企画展

海と歩んだ先人の思い



春日神社の獅子頭と棟札
影碑(同)

船の安全棟札や仏画30点

豊漁願う

日生町日生地区の春日神社の棟札(市指定文化財)は他の神社の棟札を含めて保存されており、江戸期から明治期に至る6枚を展示。さらに秋の大祭で奉納する獅子舞は市無形民俗文化財に指定されており、獅子頭、横笛、すりがねを披露している。

西念寺からは阿弥陀如来画像(市指定文化財)。室町末期の仏画で、僧・頭如から日生門徒に下賜されたと伝わる。海運業を営み、寺の建立に尽力した江戸中期の豪商・田淵屋基九郎の頭影碑(同)。

西崎美香学芸員は「先人から受け継がれてきた信仰や思いに触れて、一人一人がそれぞれのルーツの歴史や文化、祭りの継承について考えてもらいたい」と話す。

入場無料。時間は午前9時〜午後4時半。17、23、24日は休館。問い合わせは同文化館(0869@9002)。(平田知也)

備前 日生で社寺に焦点当てた企画展



備前・日生地区 対応強化

国内の港間で貨物を運ぶ内航海運業界が、慢性的な船員不足にあえいでいる。人材獲得競争の激化や若手の定着率の低さが背景にある。高齢化も進む中、国内有数の海運基地である備前市日生町地区では、子どもへのPR活動を展開したり、事業者自ら人材育成の新しい会社を設立したりと対応を強化している。

(久万真毅)

8月24日、備前市・日生港に地元の小中学生が集まった。弓削商船高専(愛媛県上高町)の練習船「弓削丸」の乗船会に参加するためだった。



練習船「弓削丸」の乗船会をかじを握る参加者
8月24日、備前市・日生港

船員不足 子どもにも活路

興味津々で操舵室などを見て回る子どもたち。企画した日生地区海運組合の久本久治理事長は「この中から一人でも多く船員を目指す子が出てくれたら」と期待を寄せる。

中国運輸局岡山運輸支局管内の船員の有効求人倍率は、人手不足を背景に昨年平均で13・3倍と全国(3・9倍)の3倍を超えた。ある経営者は「給与が物流の大動脈で、高い大手に人材を奪われている。われわれのような経営基盤が弱い中小業者では太刀打ちできない」と明かす。

厳しい状況の中、同組合は地元の子もまた

ち活路を見いだそうとしていた。成果は少しずつ表れている。かつて乗船会に約10年前から小学校に船員が出向き、仕事に魅力を感じる出前授業をスタート。2019年からは練習船の乗船会も始め、学童期から船に興味を持ってもらう活動を続ける。

地域で育てる。同組合は、離職をどう防ぶかという課題に

内航海運業界深刻

興味津々で操舵室などを見て回る子どもたち。企画した日生地区海運組合の久本久治理事長は「この中から一人でも多く船員を目指す子が出てくれたら」と期待を寄せる。

中国運輸局岡山運輸支局管内の船員の有効求人倍率は、人手不足を背景に昨年平均で13・3倍と全国(3・9倍)の3倍を超えた。ある経営者は「給与が物流の大動脈で、高い大手に人材を奪われている。われわれのような経営基盤が弱い中小業者では太刀打ちできない」と明かす。

厳しい状況の中、同組合は地元の子もまた

記者の目

今夏、全国の空港で航空燃料が足りず、国際線の新規就航や増便を取りやめる事態が起きた。燃料を運ぶ内航海運の船員不足が原因の一つと言われる。

主に産業用資材を運ぶ内航海運は一般にはなじみが薄い。だが、人材難の影響が社会に確実に広がっている。人材確保に向け、地域全体で知恵を出し合いたい。(久万真毅)

人材難の影響認識して

水島コンビナートを擁する岡山でも、製造業などに支障が出る恐れがある。人材確保に向け、地域全体で知恵を出し合いたい。(久万真毅)

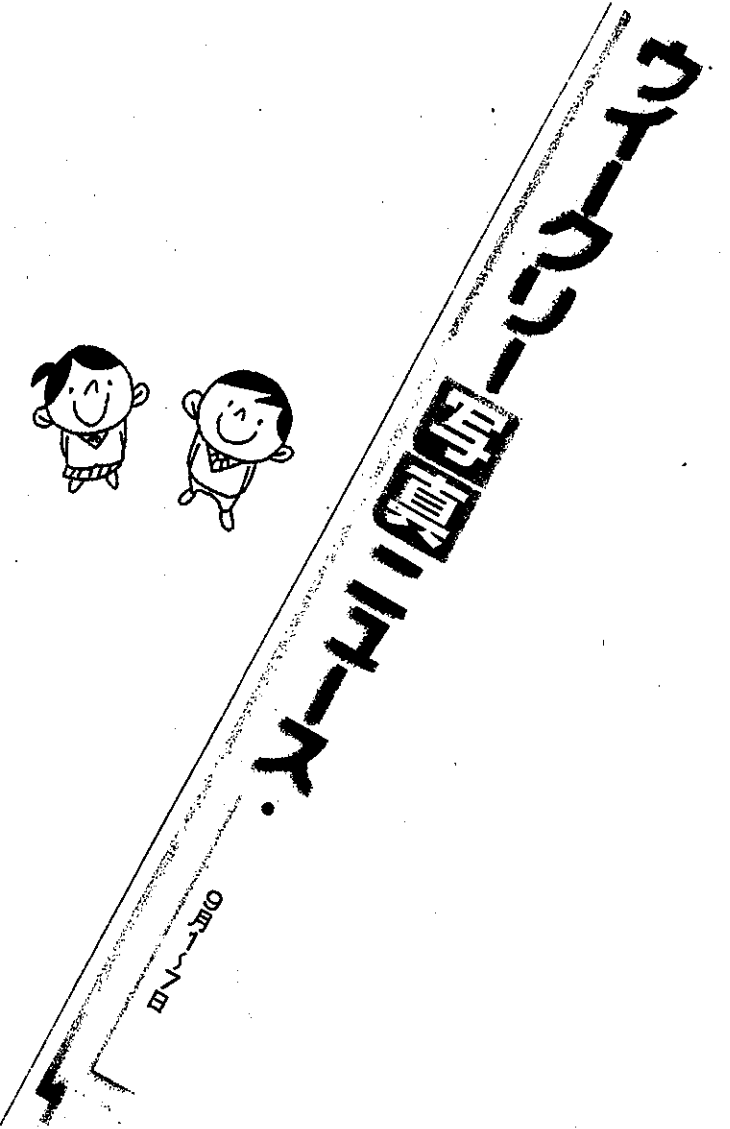
乗船会、出前授業でPR 新人育成特化も

も直面している。若手の約3割が採用後、2年以内に退職している。その結果、船員の半数以上が50代と高齢化。60代が退職を先延ばしし、やりくりしているという。

そこで注目されているのが19年、同地区のホーフルマリオンと勝光海運が共同で設立した新会社「アンカース」だ。新人支援に特化した事業を柱とする。

雇用した新人を地元中心に構成する協力会社の船に派遣。指導者も同時に送り込み、技術習得に加え、船内での生活相談までマンツーマンで面倒を見る。

船員は乗船すると数カ月間は先輩と寝起きを共にする。その間、人間関係に悩む若手は多かった。水谷鉄平社長は「スムーズに職場になじめるようサポートしたい。地域の船員は地域で育てていかなければ」と話す。



備前・日生中で「防災給食」 レトルトや乾パン

災害に備えて備蓄している非常食を食べる「防災給食」が2日、備前市日生町日生の日生中で行われ、生徒がレトルトのカレーライスなどを味わって防災意識を新たにした。写真は、メニューは、食物アレルギーの原因となる原材料28品目を使用していない全国学校栄養士協議会(東京)開発の「救給カレー」と、乾パン、ゼリー、牛乳。1日の「防災の日」にちなんで行った。

